

災害に備えて

これから梅雨の時期を迎えます。注意しなければならぬのが、ゲリラ豪雨や、長雨などによる河川の増水や、土砂災害の危険もあります。また、5月の連休最終日に、茨城県と栃木県で発生した竜巻では、尊い人命と多くの家屋の損壊など甚大な被害をもたらしました。災害はいつ起こるかわかりません。日ごろの備えが大切です。

台風・大雨・洪水



突風・竜巻

▲急激な天候の変化には注意が必要

防災行政無線で河川情報を放送

災害の発生が予想される場合は、阿武隈川の水位情報などを防災行政無線で市民の皆さんにお知らせします。

避難が必要な場合に備えて、防災無線にご注意いただくとともに、早めの避難を心がけてください。

不用意に河川に近づくのは危険です

河川や水路が増水している時に不用意に河川に近づくと危険です。河川が増水しているときは、近づかないよう注意してください。

竜巻はどこでも発生する

竜巻はどこでも発生します。季節も問いません。台風、寒冷前線、低気圧に伴って発生します。竜巻はレーダーではとらえることが困難なため、発生のメカニズムは十分に解明されていません。

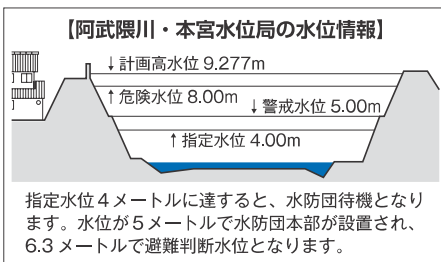
竜巻接近時の特徴

- 空が急に暗くなる
- 大粒の雹が降る
- 飛散物が筒状に舞い上がる
- 気圧の変化で耳に異常を感じる

竜巻の特徴

- 突発的に発生
- 猛烈な風が吹く
- 短時間で狭い範囲に被害が集中
- 竜巻の移動スピードが速いと被害が大きい

竜巻に関する記事は、内閣府・気象庁「竜巻突風対策検討会」竜巻等突風災害とその対応」を参考としています。



土砂災害にも注意が必要

長雨などにより地盤がゆるむと、土砂災害の危険もあります。

自宅裏に山や法面がある場合は、注意が必要です。異常を感じたら、避難することが大切です。

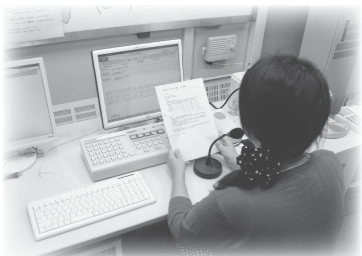
竜巻からの身の守り方

- 屋外にいる場合
- 車庫・物置などを避難場所にしない
 - 橋や陸橋の下に行かない
 - 近くの頑丈な建物に避難する
 - 飛来物に注意する
- 屋内にいる場合
- 雨戸・シャッターを閉める
 - カーテンを引く
 - 家の中心部に近い、窓のない部屋に移動する
 - 部屋の隅、ドア・外壁から離れる
 - 頑丈な机の下に入り、両腕で頭と首を守る

日ごろから災害に備えを

日ごろから家族で話し合いするなど災害の備えを心がけ、災害に対応することが大切です。風水害などに備えるために、新聞、テレビなどで気象情報に注意をはらい、いざという時に備えましょう。

防災無線でFM放送割り込みも



市では、大雨・洪水、強風などで災害の発生が予想される時は、防災無線で情報提供します。停電に備え、戸別受信機に乾電池が入っているか確認してください。

また、緊急時には、FMモットコムに割り込み放送をすることができ、防災無線を聞くことができます。防災無線を聞くことができない場合はFMモットコム(77・7メガヘルツ)の放送をお聞きください。



(右) 昨年9月21日、台風15号接近に伴う対策を協議する災害対策本部 (左) 高木地区で水防活動をする消防団の皆さん

